

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業） 分担研究報告書

技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究

— 視覚系補装具勉強会の開催報告およびアンケート調査—

研究分担者 山田明子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部
研究協力者 清水朋美 国立障害者リハビリテーションセンター病院 第二診療部
松井孝子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部
齋藤崇志 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害福祉部

研究要旨

視覚障害に関連する補装具（以下、視覚系補装具）や日常生活用具については制度も含め、知る機会が少なく、それぞれがどのような支援と結びついているか、また、どのように処方され活用されているかといった正しい知識は、眼科医療に携わる眼科医、視能訓練士、看護師等の医療専門職でも理解が不十分であるという現状がある。

本研究では、視覚系補装具や日常生活用具に関する情報共有を目的として、それらを利用する視覚障害者、選定や支給に関わる医師、視能訓練士、看護師等の医療専門職等、視覚系補装具や日常生活用具に関わるすべての者を対象とした勉強会を令和5年10月から令和6年3月にかけて計6回実施した。また、6回の勉強会終了後に、その効果の把握と今後の課題抽出を目的としてアンケート調査を実施した。

各回ともに600名以上の登録があり、補装具や日常生活用具についての関心の高さが示された。アンケート調査では384件（回答率23.3%）の回答を得た。その結果、勉強会の内容についての評価も各回ともに「非常に良い」「良い」と言った良好な評価を示す割合が6割以上であり、有用な勉強会の内容であったことがわかった。今後の勉強会への参加を希望する回答も9割以上を占め、情報提供の場が望まれていることがうかがえた。

以上のことから、補装具や日常生活用具に対する情報提供のニーズは高く、視覚障害者のみならず視覚障害者に関わるすべての人に対し、補装具や日常生活用具に関する情報を提供することの必要性が示唆された。

A. 研究目的

障害者総合支援法に基づいて給付される福祉用具には補装具と日常生活用具がある。視覚障害に関連する補装具（以下、視覚系補装具）には「視覚障害者安全つえ」「義眼」「眼鏡」の3種目があり、そのうちの眼鏡は、矯正用、遮光用、コンタクトレンズ、弱視用に分類される。

一方、日常生活用具は、用具の用途および形状により「介護・訓練支援用具」「自立生活支援用具」「在宅療養等支援用具」「情報・意思疎通支援用具」「排泄管理支援用具」「在宅生活動作補助用具」に分類される。

補装具や日常生活用具の存在自体は知られているが、それぞれがどのような支援と結びついているか、

また、どのように処方され、活用されているかといった正しい知識は、眼科医療に携わる眼科医や視能訓練士、看護師等の医療専門職でも理解が不十分であるという現状がある。その原因としては、補装具や日常生活用具について、制度も含め知る機会が少ないことが考えられる。

このような問題点を受けて令和5年10月から令和6年3月にかけて視覚系補装具に関連した勉強会を計6回実施した。対象者は補装具を利用する視覚障害者、選定や支給に関わる医師、視能訓練士、看護師等の医療専門職及び訓練に関わる歩行訓練士、機能訓練専門職、補装具事業者、その他、視覚障害者家族、支援者、教育関係者等、補装具に関わるすべての者とした。

本研究では、勉強会の開催経緯とその内容について報告するとともに、勉強会の効果の把握と今後の勉強会の課題抽出を目的としてアンケート調査を実施したため、報告する。

B. 研究方法

b-1. 視覚系補装具勉強会開催経緯・内容報告

令和5年度に実施した6回の視覚系補装具勉強会の開催までの経緯とその内容について報告する。

b-2. 視覚系補装具勉強会評価アンケート調査

アンケート調査は、オンラインでのアンケート（Google フォーム）を作成し、第1回から第6回の視覚系補装具勉強会参加登録者1651名へ電子メールで回答を依頼した。

視覚障害等の理由でGoogle フォームでの回答が難しい場合の対応として、メールでの回答フォームを準備した。回答期限は令和6年4月30日とした。

アンケートでは、参加者の年齢、在住地、職業等の属性、勉強会への参加方法、各勉強会内容についての評価、勉強会後の補装具費支給制度への理解の可否、今後の勉強会への参加希望の有無を選択肢方式で調査した（付録1）。また、自由記述として、「本勉強会の情報提供方法について」、「今後の勉強会で取り上げてほしいテーマ」、「その他意見」を調査した。

（倫理面への配慮）

アンケート調査にあたっては、国立障害者リハビリテーションセンター倫理審査委員会承認を得た（承認番号（2023-122））。

C. 研究結果

c-1. 視覚系補装具勉強会開催経緯・内容報告

（1）事前ミーティングの実施について

勉強会開催前に、勉強会の運営に関わるスタッフおよび各勉強会の講師の計8名での事前ミーティングを令和5年10月13日（17:00～18:00）にオンライン（ZOOM）で実施した。

ミーティングでは、補装具及び日常生活用具につ

いて、1. どのように処方され、活用されているかについての正しい知識の紹介、2. 法令に沿った正しい申請の手順、3. 給付を受けたあと、継続して使用するための方法の3点を勉強会の目標として共有した。

また、さまざまな視機能を持つ参加者への対応として、見やすいフォント、サイズの文字を用いることや全盲等でスライドを確認することができない場合もあることからスライド画面に書かれている内容は原則としてすべて説明をすることを確認した。

事前のミーティングへの参加が難しかった講師1名に対しては、他のミーティング参加メンバーの了解を得て、事前ミーティングの様子を録画し、後日、その動画を閲覧することで共有を図った。

（2）視覚系補装具勉強会内容について

令和5年10月から令和6年3月までに6回の視覚系補装具に関するテーマでの勉強会をオンライン（ZOOM）で実施した。勉強会の様子は録画を行い、後日、登録者限定でオンライン（YouTube）により視聴できるようにした。6回中のいずれかの回に登録した者で、登録していない他の回の視聴を希望する場合には、希望者の登録確認をした上で他の回の視聴を可能とした。

各回の内容を以下に示す。

①第1回

日時：10月19日（木）18:00～18:50

テーマ：補装具の制度について学ぼう（視覚系補装具の種類と補装具費支給制度）」

②第2回

日時：11月16日（木）18:00～18:50

テーマ：補装具としての眼鏡を学ぼう

③第3回

日時：12月21日（木）18:00～18:50

テーマ：眼鏡（遮光用）について学ぼう

④第4回

日時：1月25日（木）18:00～18:50

テーマ：義眼について学ぼう

⑤第5回

日時：2月15日（木）18:00～18:50

テーマ：視覚障害者安全つえについて学ぼう

⑥第6回

日時：3月21日（木）18：00～18：50

テーマ：日常生活用具について学ぼう（日常生活用具の種類と給付の仕組み）

(3) 勉強会開催の情報提供方法について

第1回勉強会開催時は、国立障害者リハビリテーションセンター学院で行われている「視覚障害者用補装具判定医師研修会」と「視能訓練士ロービジョンケア研修会」への受講者のうち、希望者で構成される各メーリングリスト（以下「視覚障害者用補装具判定医師研修会メーリングリスト」と「視能訓練士ロービジョンケア研修会メーリングリスト」）、視覚障害リハビリテーション協会会員の希望者によるメーリングリストに情報提供を行った。勉強会開催の情報は視覚系補装具に興味のある方へ転送可能とした。

第2回目以降は、前回の勉強会までの登録者と視覚障害者用補装具判定医師研修会メーリングリストと「視能訓練士ロービジョンケア研修会メーリングリスト」へ転送可能として、情報提供を行った。

(4) 参加登録方法について

登録については、1回目はGoogle フォーム、2回目以降はZoom ウェビナーの参加登録フォームを用いて行った。

1回目のGoogle フォームでの参加登録時において、視覚障害を持つ登録者より、送信前の認証（写真パネルタッチ：例「自動車のタイヤをすべてタッチしてください」等）の画面が表示されたが、写真の確認ができないため申し込みができないといったご意見をいただいた。そこで急遽、メールを用いた参加登録方法を追加した。具体的には、参加登録に必要な情報を勉強会専用のメールアドレスへ連絡をもらい、勉強会運営スタッフが代理登録を行った。

2回目以降のZoom ウェビナーの参加登録フォームを用いた際にも同様の配慮からメールを用いた参加登録方法を継続した。

(5) 登録者数と参加者の推移について

勉強会への登録者、当日ライブでの参加者、オンラインでの動画視聴数（2024年5月1日現在）を表1に示す。

各回ともに600名以上の登録があった。

1回目の当日のライブでの参加者は6割を超えていたが、2回目以降は3割以下と低下した。

表1 登録者数と参加者の推移

	登録者	ライブ参加者	オンライン動画視聴数(2024.5.1)
第1回	1047	643	1073
第2回	829	226	985
第3回	774	163	820
第4回	641	113	484
第5回	704	134	647
第6回	748	124	503

C-2. 視覚系補装具勉強会評価アンケート結果

回答数は384件（回答率23.3%）、有効回答数は384件であった。

(1) 年齢分布について

年齢分布を図1に示す。21歳以上から80歳を超える幅広い年代の方が参加していたことがわかった。

(2) 在住県について

在住県の分布について図2に示す。

全国47都道府県から回答を得られた。

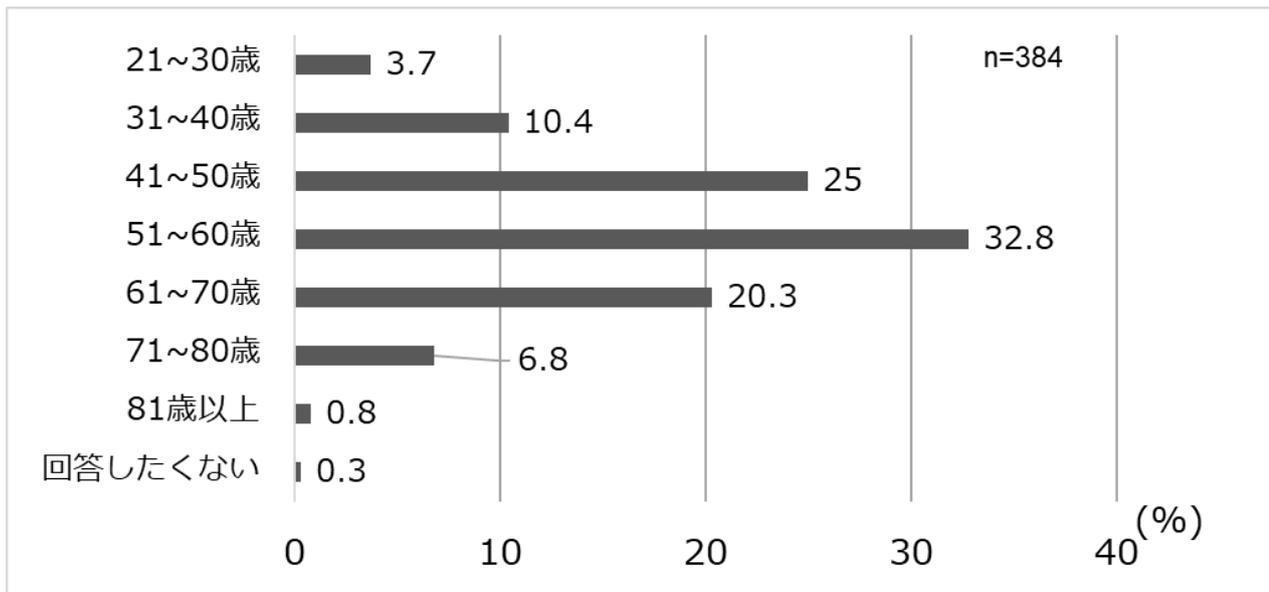


図1 回答者の年齢分布

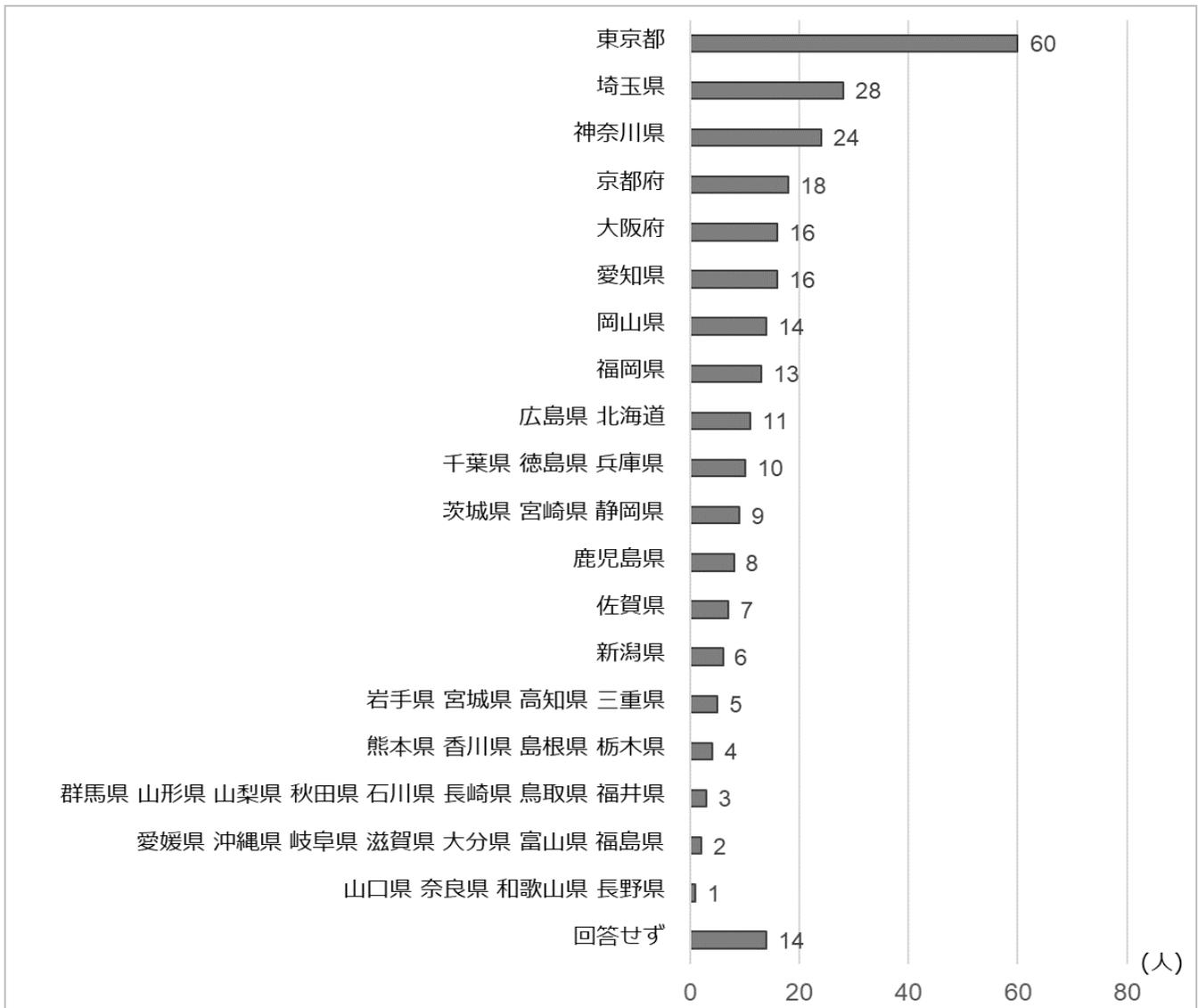


図2 回答者の居住地

(3) 属性について

回答者の属性について図3に示す。

視覚障害者当事者、眼科医、視能訓練士のほか、様々な職種の方が参加していることがわかった。

「その他教育関係者」には、技術職、寄宿舎指導員、「その他の職種」としては、眼鏡技術者、相談員、社会福祉士、視覚障害者向け生活訓練指導員、同行援護従事者（ガイドヘルパー）等があった。

(4) 参加方法について

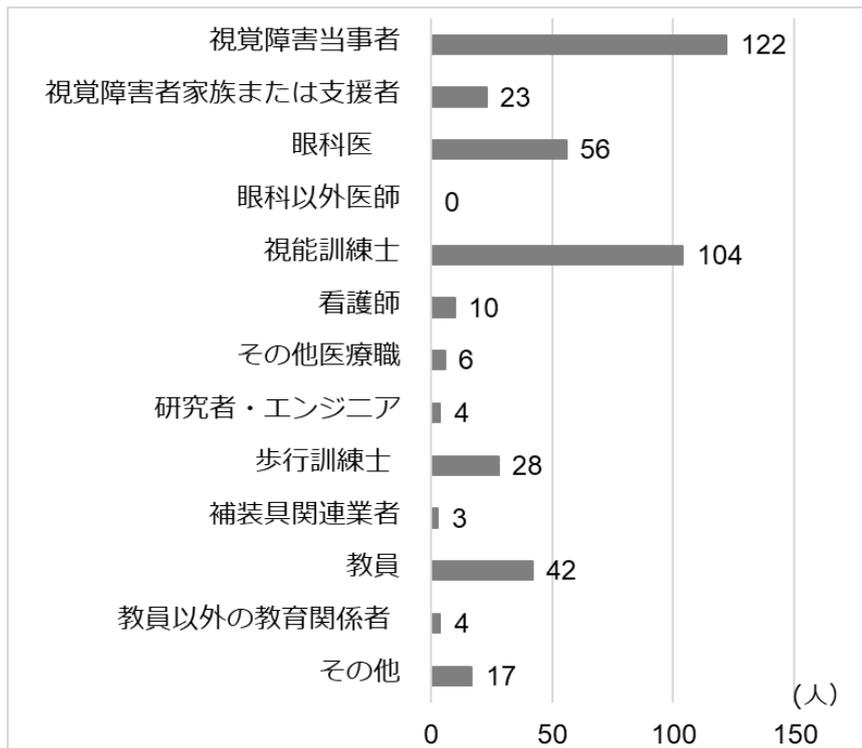
回答者の384名のうち、リアルタイムで勉強会に参加したのは254名、オンライン動画で視聴したのは341名であった（複数回答）。リアルタイムで参加した勉強会の詳細を図4に、オンラインで視聴した勉強会の詳細を図5に示す。

第1回はリアルタイムでの参加が73.6%と多かったが、2回目以降は各回ともに50%以下であった。

一方、オンライン動画で視聴した勉強会については、すべての回で50%を超えていた。

(5) 勉強会内容についての評価について

各勉強会の内容評価について図6に示す。各回ともに、「非常に良い」「良い」といった良好な評価を示す割合が6割以上であった。



その他教育関係者
技術職
寄宿舎指導員

その他
相談員
社会福祉士
視覚障害者向け生活訓練指導員
同行援護従事者（ガイドヘルパー）
相談支援専門員
障害者団体
患者会世話人
医療法人 総務課
眼鏡技術員
コンタクトレンズ製造会社

図3 回答者の属性

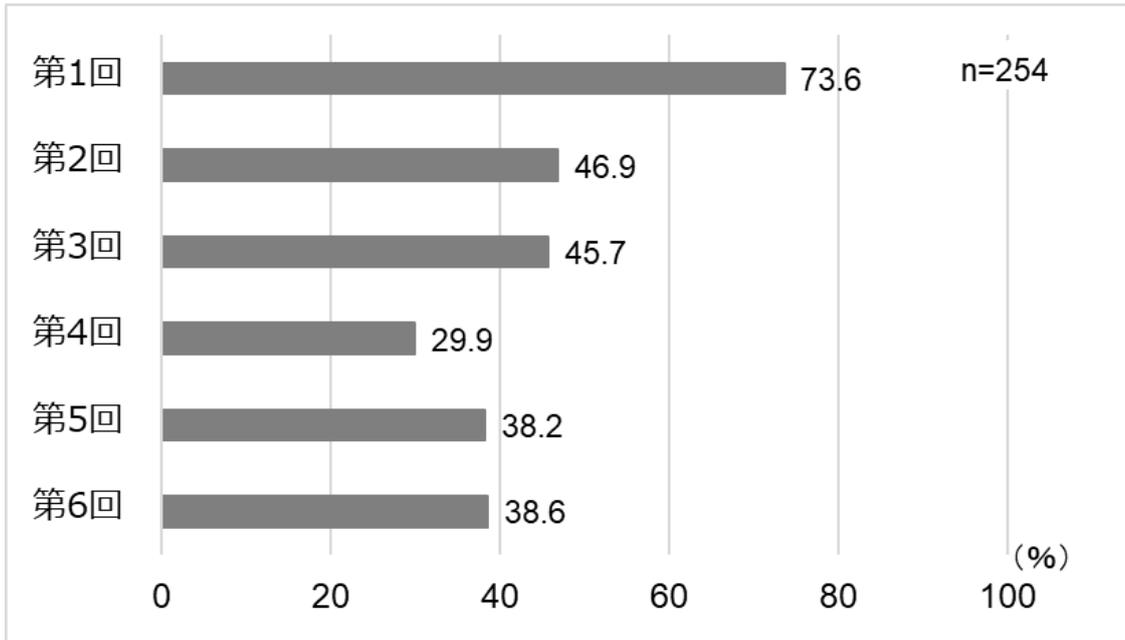


図4 リアルタイムで参加した勉強会

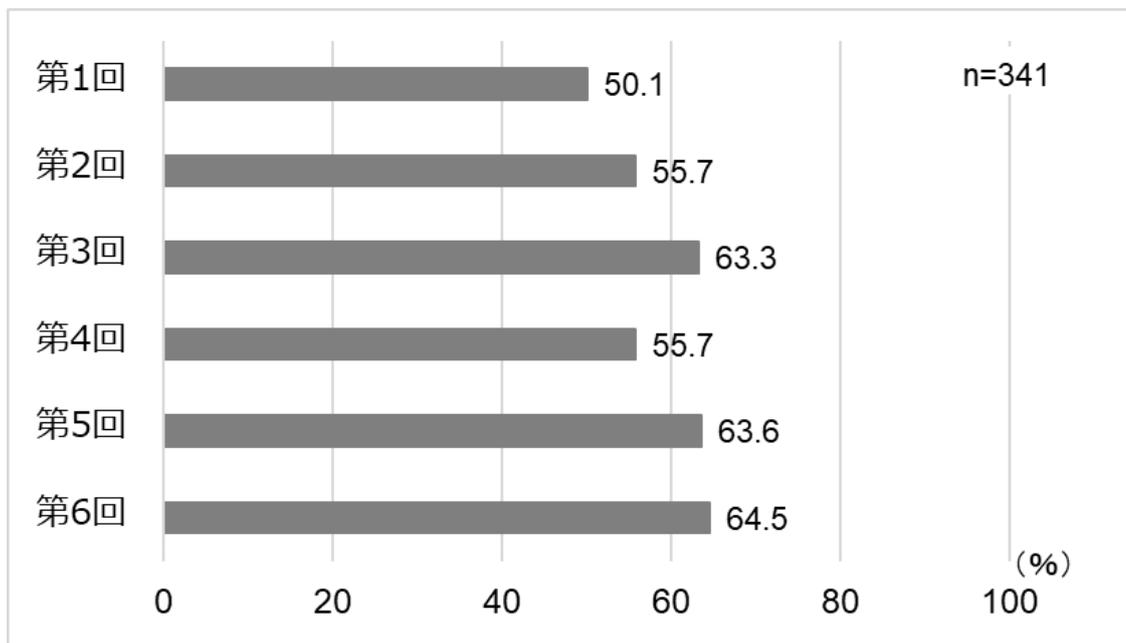


図5 オンライン動画で視聴した勉強会

(6) 補装具費支給制度に対する理解について
 勉強会への参加で、補装具費支給制度について理解
 できたかの質問についての回答を図7に示す。
 「十分理解できた」「大体理解できた」との回答が
 73.1%であった。

(7) 今後の勉強会への参加について
 今後このような補装具についての勉強会があったら
 参加したいかとの質問についての回答を表14に示
 す。「参加したい」が9割以上であった。

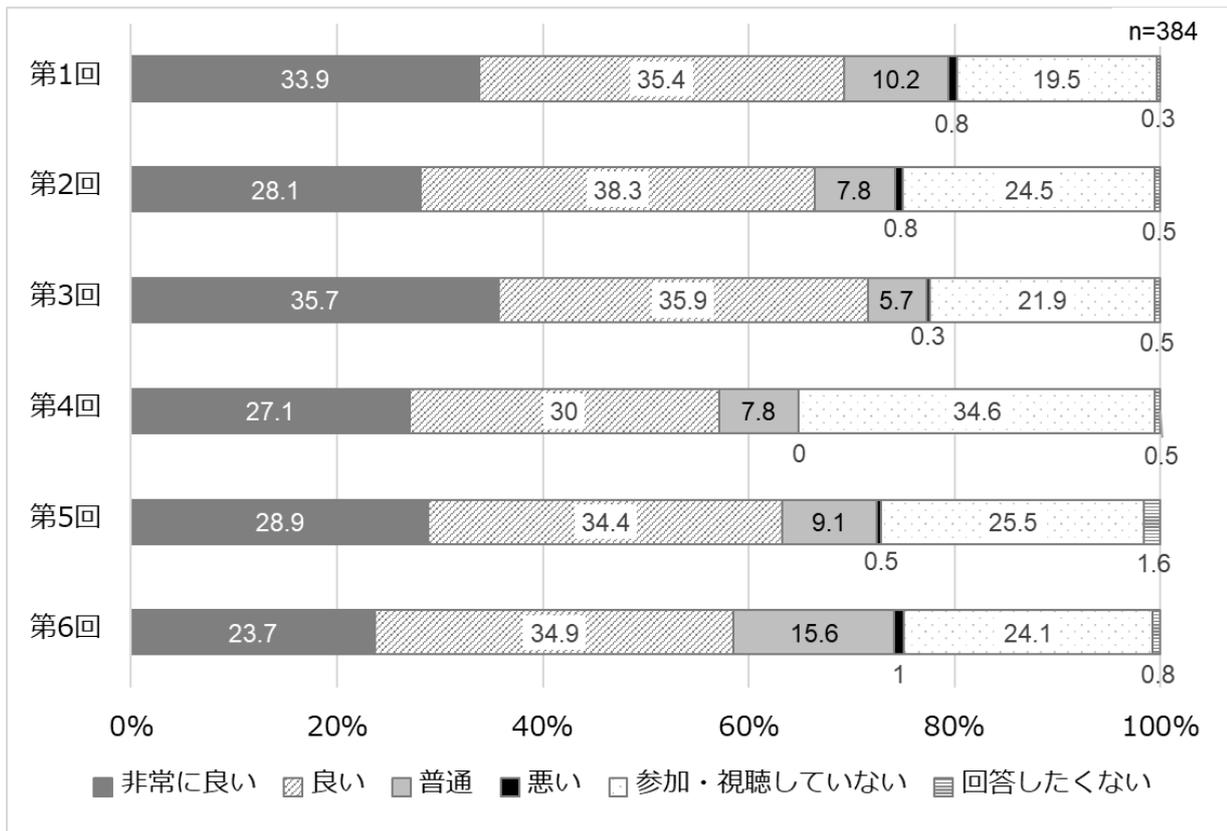


図6 各勉強会内容の評価

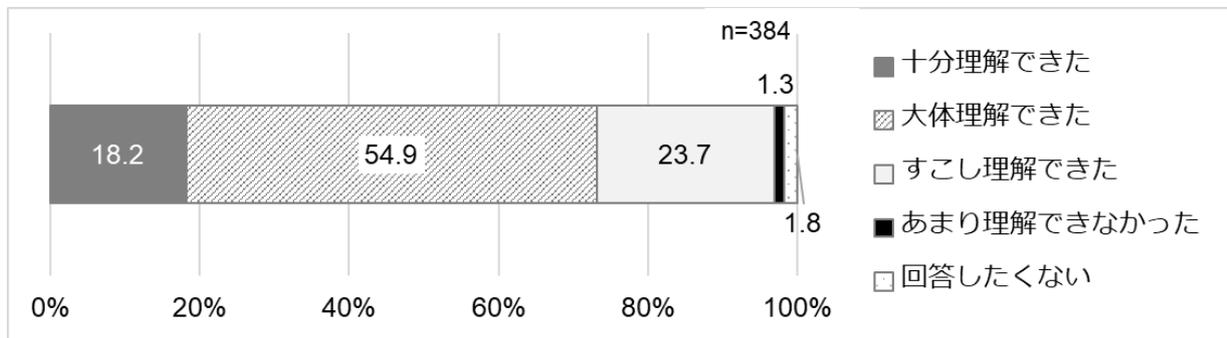


図7 補装具支給制度についての理解について

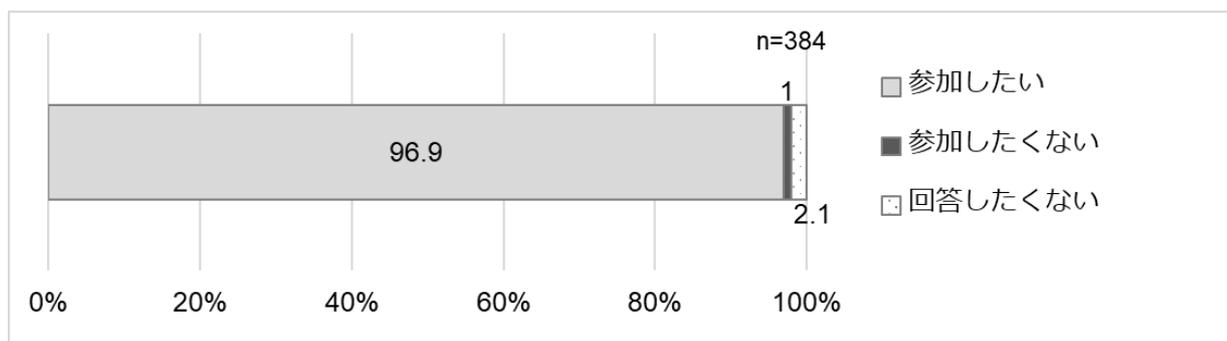


図8 今後の勉強会への参加希望

(8) その他

自由記述とした「勉強会への情報提供方法につい

ての意見」「今後取り上げてほしいテーマについて」

の意見を表 2～3 に示す。

表 2 今回の勉強会の情報提供方法についての意見（自由記載）

オンデマンドもあったんですね。初回はリアルタイムで参加したのですが、2回目以降は所用と重なり、残念ながら参加できませんでした。オンデマンドで視聴するにはどうしたらいいでしょうか。ご案内をよくみておらず申し訳ありません。

Web+オンデマンドで視聴しやすかったです

行政担当者にも参加してほしい内容でした

リアルタイムと、オンデマンドと両方見れることで、復習が出来たので良かった。

都道府県眼科医会等にも拡散してはどうか（されていましたか?）。

当日に視聴できなくても後に配信がありとても助かった。質疑応答が聞けないのは残念だが、まとめられたものがメール等でもよいのでいただけるとありがたいなと思いました。

今回のようにオンデマンド配信をお願いいたします。リアルで参加が難しい場合に大変ありがたいです。

スライド資料のダウンロードが出来るとありがたいです。

参加申込方法についてももう少し簡素化して頂きたいと感じた。各回、参加申込をさせてまで参加手続きする必要があるのか疑問に感じた。月1回の計6回シリーズ開催の旨事前に案内がなされており、リアル参加できずとも後日の動画配信が自動的に送信されるべきであると強く感じた。主な参加者に視覚障害当事者がいることを知りながら、煩わしいWebによる参加手続き方法に配慮がなされるべきだと強く感じた。また、事前にアンケート調査を実施する旨のアナウンスがあるべきであると手順に違和感を感じた。

今までの方法でよいと思います。

オンラインとズームのハイブリット形式はたいへんよかった。

リアルタイムでの参加が難しい時があったのでオンライン視聴ができたのは良かったです。

ズームとアーカイブスがあり、再度確認できてとてもありがたいでした。本当に良い勉強になりました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

仕事でオンラインに間に合わなくても後ほど動画を拝見することができたので、非常に助かりました、ありがとうございました。

オンデマンド視聴ができるのが良かったです。

アーカイブ URL でいつでも見られるのは助かりました。これは続けていただきたいと思います。勉強会の目的が「制度や事業について学ぶ機会が少ないため」なら、動画を限定公開せずに資料と共に Web サイトで公開していただくと助かります。（情報共有しやすいため）

今回の手法で、今後も問題ないと思います。

準備が大変だとは思いますが、やはり当事者と当事者以外は分けた方がよいと思います。

画面共有されても見えません。

オンラインで行なわれていたことを踏まえ、この勉強会の進行に合わせた、テキスト、ないしは、点字データによる資料があれば、とっていました。

参加申し込みを忘れても後で見られるようにしてほしい

リアルタイムでの参加が難しかったのですが、後日 URL を教えていただき視聴できたのでとてもありがたかったです。

毎回申し込むのが大変だったので、一度の申し込みで全部の会が視聴できると良いと思います。遮光眼鏡や白杖のように特定の補装具の回を除き、自治体が発行しているガイドのレベルとあまり変わらない内容が多く、もう少し個々の用具をクローズアップした内容にしていただけるとより有意義、有用だと感じました。

後日視聴できるということが良かった

眼科医会、市町村の福祉課、学校関係(校種を問わず)、今回の参加者への情報提供をお願いしたい。リアルタイム、後の動画等、現行のシステムで問題なしと思います。

なるべくリアルタイムで参加したいが、開始時刻が6時は通勤途中で難しかった。

リアルタイムではなかなか参加できないので、後日のオンライン動画はとても助かりました。

今後もオンライン、アーカイブ視聴どちらでも参加できるように継続していただけるとうれしいです。

オンラインとリアルタイムの両方があるととてもよかったです。

毎回の登録を忘れてしまうことがありました。

登録が一度だと参加しやすいと思いました。

また、案内メールにその会以降の日にと内容の情報があると申し込みの忘れや日程調整がしやすいと思いました。"

機会を逃すことが多くありました。自分の責任ですが、何か良い方法はないかと思います。

知人から紹介された。良かったです。私自身では情報を得られませんでした。

資料があるとなおよかったです。

リアルタイムで参加できない時も、後日 YouTube 配信で見ることができたので、とてもありがたかった。

大量の資料がある場合、差し支えない範囲で、ダウンロードできる仕組みがあると良い後日、何度も見返すことができありがたいです。

リアルタイムの時間が勤め人だと丁度見られない時間帯なので午後一番やもう少し遅い時間があるとありがたいです

オンデマンドで見られるのが非常に助かりました。

オンラインで時間のある時に視聴できるのが良かったです

各団体の ML や掲示板などへ載せる

リアルタイムでの配信では受講が難しかったので、後日自分の都合の良い時間帯に視聴できる仕組みになっていて良かったです。

ユーチューブ動画にコマーシャルが入り、視覚障害者なのでそこをスキップするのに苦労した。がリアルタイムで聴いても理解できていないことがオンデマンドで再度聴けるのがありがたかった。募集の期間とその方法、当日参加できなくても後で視聴できるのでとても安心して申し込みました。スライドの資料など手元にあるとうれしいです。

勉強会の都度に申し込みをする必要があったため、申し込み忘れる人もいたようです。一括申し込みの方が手間が省けて良かったかと思いました。リアルで聞けなくても後程動画配信されるのはとても助かりました。

勉強会に参加したいと思っていたけど、急な用事ができて参加できなかったこともあったので、後で視聴できるようにアーカイブも用意してほしいなと思った。

zoom、YouTube、などのオンライン学習会

盲学校の校長会や全日盲研などを通じて、情報提供いただけたらと思います。

リアルタイムとオンラインの併用は非常に好都合です。

非常にスマートに感じました。

内容が難しいので困難かと思いますが、15分くらいでもっと細切れに見れるような配信があったら見やすくいいなと思う

メーリングリストや SNS での情報提供。

オンデマンドで視聴できると大変助かります。聞きたかった講義の申し込みを忘れてしまったことが残念でしたので、全講義一括の申し込みを受け付けてくださるとありがたいです。

オンラインで参加できる方式で、とてもよかったと思う。リアルタイムでの視聴を逃しても後で見ることが出来るので助かった。

もっと視覚障害者団体へ情報提供した方がよい

ユーチューブなど時間場所に関係なく学べるとよい

後日に何度でも、期限なく YouTube で見られるシステムがとても助かりました

リアルタイムでの視聴は難しいので、自分のタイミングで視聴できるのは良かったです。

リアルタイムでの視聴は時間が合わず難しかったためオンライン動画で都合の良い時間に視聴できたのがとても良かったです。

沢山の人が参加できるようにオンライン、Zoom、YouTube などを使用して講義をお願いします。

リアルタイムで参加できず、後日配信で視聴できたので良かったです。

映しておられた資料がほしいと思いました。※後日お問い合わせします。

表3 今後の視覚系補装具の勉強会で取り上げてほしいテーマについての意見（自由記載）

<p>知識が増えて視野が広がり気付きが違うので同じテーマでもまた聴きたい。</p> <p>拡大鏡の合わせ方</p> <p>遮光眼鏡有効性の判定法・拡大と音声併用の効果</p> <p>歩行訓練士の業務、活動の実態など</p> <p>拡大鏡の処方の実際の手順（とくに、道具があまりない医療施設、経験豊富なスタッフがいないなど、新しく処方を始める時のノウハウ）、事例紹介など。医療関係機関で、実際に補装具（や、日常生活用具）の処方ができる施設が増えればと思います。知識だけでなく、モノや経験が豊富でない医療現場の場合のとりかかりかたについてヒントを全国へお伝えいただければと思います。</p> <p>視覚系補装具については、国の制度によるものなので、普遍的なものであることから、検討の余地はないものと感じたところだが、日常生活用具については、地方行政により対応が異なることから、全国的なガイドラインを整備し、同じ視覚障害を有する当事者が暮らす土地による格差が生じないように是正する仕組みを検討するような勉強会を開催して頂きたいと思います。</p> <p>スマートサイトの運用について</p> <p>日常生活用具で 利用できるスマートフォンアプリや支援用具を教えて欲しい。</p> <p>見えにくい方が、病院やクリニックを受診する際に困ったり戸惑ったりすることを教えてほしい</p> <p>基礎的な知識、情報の提供に加え、新たなニーズ（制度上対象とできる物など）への対応の現状など。</p> <p>①アプリ、スマホ活用情報。具体的な内容で。②第1回が特に良かった。今後も行政の方の話を聞きたい。</p> <p>拡大読書器、スマートグラス等のデバイス</p> <p>夜盲症用メガネお呼び関連情報</p> <p>義眼について、もっと詳細な情報がほしい。</p> <p>弱視児用単眼鏡、ルーペについて</p> <p>症例報告</p> <p>当事者の実態に応じた選定の考え方や事例</p> <p>患者さんの程度によって どのような段階で紹介すると良いのか。患者さんが補助具の説明を 将来を悲観しないようにするためには どのタイミングで話せば良いのか障害認定のタイミング等 技術の発展に伴う、補装具や日常生活用具の制度・対象物の変遷と今後の展開</p> <p>拡大鏡について詳しく知ることができると幸いです</p> <p>眼鏡（弱視用）の選定および指導方法、拡大読書器の指導方法、PCソフトやアプリについて 補装具としての認定を検討されている物、認定できなかったものを、理由と一緒に紹介していただきたい</p> <p>65歳の壁において、補装具の活用への影響の有無、影響があれば対策を教えてほしい</p> <p>物価高騰、新製品など、年々、速く変化している動きを反映させた、最新情報について 実際に補装具、日常生活用具を活用している人のお話</p> <p>経験が少なく、忘れてしまうので、時々同じ内容を繰り返してほしい</p> <p>日常生活用具をもう少し詳しく知りたい</p> <p>拡大読書器、ルーペ</p>

拡大読書器、ルーペ

現状の用具だけでなく、指定されている用具以外で当事者に利活用されているような物品、特にスマホとアプリを紹介するような内容のほうが現状のみならず将来に向かって有意義、有用だと感じます。頑張ってください。

補装具や日常生活用具の基準額が古いもので最新の金額に合わせていただくことは難しいのでしょうか？また、その方法がありましたら教えていただきたいと思います。

ICT など最新の技術を導入した器具の開発情報

病名ごと程度ごとの困難な点と改善方法・視機能低下による患者さんの心のケアについて申請書類の作成の注意点やポイントを知りたいです。

iPad や iPhone の標準で使える機能やアプリ

今後も白杖の講演（GPS、電子式、アプリなど含）を続けていただきたい

スマートフォンの便利なアプリの紹介

ロービジョンケアの計画書の作成方法

拡大読書器のリハビリ指導

ICT の活用

白杖のより高度な使い方、種々の新規開発機器の紹介。

標準的ではない自治体の対応

今回取り上げて頂いたテーマで良いので、白杖や遮光眼鏡の種類を選択決定するまでの対象者とのやり取りなどの過程を症例 1、2 等 実例をあげて説明して頂きたいです。

単眼鏡とルーペについて

補装具になるかどうか分からないが、スマホ・パソコンのアプリを教えてもらいたい。

拡大鏡/遮光レンズの選定方法と実際の様子

ユーザーニーズとのギャップ（製品、インフラ、行政仕組み、一般社会の時代進化など）の全体統計整理と課題、NEDO や NICT の活動成果

遮光眼鏡を利用することで困る事とその対処方法

例) 明るさが異なる場所に合わせていくつも必要となる

オーバーグラスタイプをかける（他のフレームではまぶしい）と視野が制限される
マスクをすると曇る"

所得との兼ね合いもあると思いますが、どのくらい補助が出るのか細かく教えて欲しいです
就労について

ルーペの選定など

日常生活用具の拡大読書器（電子拡大読書器も含む）

音声読み上げ機器

当事者の日常生活について、当事者から伺えるとケアの参考につながるのではないかと感じています。また、前回と同じ内容で繰り返していただいてもよいのではないかと思います。

制度の改定があった時など、どのように情報を得ていくのが妥当なのか教えて欲しいです。

補装具を私用することで改善したり得られた効果などの事例

当事者の方が普段困っていることと、それに対する回答とか、コミュニケーション形式の物
スマホ、タブレット、パソコンのアクセシビリティ

患者さんの補装具について医療と福祉が密に相談できるようになるためにどのようなことが必要か。
視覚障害者の教育機関や仕事など。

患者さんの心理や対応

拡大読書器や最新の機器、眼鏡、遮光眼鏡の詳しい知識を希望します

ハイパワープラスレンズや単眼鏡の処方仕方（度数合わせの方法）を知りたいです

補装具受給の具体的な手続きの方法や行政の福祉の担当者の話を聞いてみたい

音声読み上げソフトについて。

ルーペの倍率、活用法。 ハイパワープラス眼鏡のあわせ方。

これからの補装具のあり方

同行支援の制度について。

障害の制度と介護保険の制度は年齢で優先される補助制度が変わるのか。

見えなくなった後の社会生活やできる仕事などが知りたいです

補装具、用品等の実態統計、最新情報

いろいろな改善のためにできることを教えてほしい。それぞれの立場から。

弱視メガネについて教えてください。

便利グッズを実際のどのように活用されているのかについて、複視を軽減させるフレネルというシールやプリズムメガネについて。

視覚障害者用のアプリを取り上げてください。

日常生活用具の具体的、実際の使い方

新しく便利な商品も開発が進んで、知らない商品が多いです。安心・安全に暮らせる商品と実際に利用している方の感想を聞きたいです。

パソコンやスマホの基本的な使用方法など IT に関する課題等をお願いできればと思います。

補装具等の欠点や好評点の詳細

日常生活用具になるが、パソコン用ソフトや特殊な視覚補助機器など補助の対照となっている自治体が少ない用具を認められる為の方法、どうやって認められたか、認められる為にどうすればいいかなどを知りたい。

ルーペの種類やそれぞれの特徴

ルーペ、単眼鏡の選び方、使い方

遮光眼鏡について、レンズが割れた、フレームが曲がったり、壊れたりした場合対応年数に限らず。

修理で申請できるなどご存じない方がおられたように思いました。

デジタルデバイスや視覚補助のアプリの紹介

就労支援の具体例 日常生活で感じている困りごと

実際の利用者さんにどのような訴えでそれらを解決できた補装具や方法など事例等が多数知れたらと思います。もちろん個人個人で訴えが千差万別かと思いますが色々な勉強会で同じようなお話は聞きますが具体例について話されることは少なく、指針となるような例等があればと思います。

世の中にある遮光レンズの種類を詳しく知りたい

見え方や用途別の拡大読書機の選び方をもっと具体的に知りたい。

電子的な歩行補助具の様々を知りたい。

AI も採用する最新の機器

具体的な症例事の眼鏡処方例や拡大読書器の有用性

海外の補装具の現状、スマートフォンのアプリ関係

ルーペ、拡大読書器の選定方法

他県によって内容がまちまちだったりするので、他県の情報も知りたい

外出支援のナビレクやナビレンスなどの情報について

日常生活用具の品目や価格の地域間格差について

各都道府県での支給状況

最新事情等

眼鏡・拡大鏡・遮光眼鏡の処方例や日常生活用具の活用事例

拡大読書器と音声読み上げ機器について詳しく知りたい。

拡大読書器の選定方法 ルーペの選定方法

自治体ごとの制度・具体サービスの違い

日常生活用具給付制度の地域間格差と是正方法について

日常生活用具の中で情報通信支援用具（音声読み上げソフトなど）があります。それについての対応年数や、対応年数経過後、それらの品目を再交付申請して給付を受けるにはどのようにしたらよいのか教えていただきたい。

新規に認定された補装具の紹介

拡大読書などの機器

日常生活用具の関連になるかもしれませんが、パソコンやスマートフォン（ICT）関連

医師作成の診断書、手続きについて、もう少し詳しく知りたい

歩行訓練の実際の様子や杖の選定の様子が

動画で見てみたいと思いました。

自治体との連携など

視覚障がい者にとって便利な AI を使用した補装具勉強会やアプリなどを使用する方法、パソコンを利用する方法などを講義して貰えるともっと患者さんに案内出来るかと思います。

高齢者にも使用しやすいアプリなどスマホ関連の情報

具体的な処方方法、実際患者さんと対面した時の問診の仕方など、具体的なお話を聞かせて頂ける勉強会があると嬉しいです。日常生活用具や、補装具だけではロービジョンの患者さんに対応しきれないと感じており、便利グッズの紹介や、生活上でのアドバイス方法など教えて頂きたいです。役所関係の話ですと、ヘルパーさんを求める方が多いですが、認定方法や視覚障害の有無で受けやすくなるのか、など分からない事だらけなので、勉強会があると嬉しいです。

拡大読書器の多彩な機能について。歩行を助けるアプリについて

日常生活用具については自治体によりかなりのバラツキがある。そのような実態もふまえたお話を聞きたい。

弱視メガネについて教えてください。

日常生活で使用できる便利なものがあれば知りたいです

海外の先進的事例

情報系支援機器の特例補装具ないしは日具への適用の可能性について 特に来年度

白杖を製造されているメーカーについて、会社概要を詳しく知りたいです。

遮光眼鏡は、度数を入れても入れなくても金額は同じ。視野障害でも度数を入れてもらえる運用もされており、その辺を明確にした講義をしてほしい。
生活訓練についてのお話を聞きたいです

D. 考察

眼科医療分野や視覚リハビリテーション分野等、視覚系の福祉用具に関わるすべての方面において、視覚系補装具や日常生活用具といった福祉用具について知る機会が少ないという問題点を受け、計6回の視覚系補装具（日常生活用具を含む）に焦点をあてた勉強会を実施した。

各回ともに600名以上の登録があり、アンケート調査から様々な職種や立場の者が参加していたことがわかった。

また、「今後もこのような勉強会があったら参加したいか」をたずねた質問において、「参加したい」と回答した割合が9割以上を示しており、補装具や日常生活用具についての情報提供のニーズの高さがうかがえた。

各勉強会の内容についての評価については、各回ともに「非常に良い」「良い」と言った良好な評価を示す割合が6割以上であり、有用な勉強会の内容であったことがわかった。

以上のことから、補装具や日常生活用具への関心は高く、今回のような補装具や日常生活用具に関する情報を得ることのできる場を提供することの必要性が示唆された。

勉強会への参加手段については、アンケートの結果から、2回目以降のリアルタイムでの参加は減少し、オンラインでの動画視聴が多数を占めていたことがわかった。表2の勉強会への情報提供方法についての意見では、「リアルタイムと、オンデマンドと両方を見ることができると、仕事等の都合でリアルタイムの参加が難しかった場合にも後で視聴ができて助かったという意見や復習が出来たので良かった」「後日オンラインで視聴できることで復習ができて良かった」といったリアルタイムでの参加とオンデマンドで後日に視聴できる形式が有効であったという意見が多く見られた。

補装具や日常生活用具についての情報を共有するという本勉強会の目的から考えると、リアルタイムだけでなく、オンラインで後日に視聴が可能であったことが情報の共有を促すひとつのきっかけとして効果があったのではないかと考えられた。そして、情

報を得たいと考えた時に、誰もがすぐに必要な情報にアクセスできるよう、視覚系補装具や日常生活用具についての情報を得られる場の構築が必要なのではないかと考えられた。

一方、勉強会を通じて、様々な視機能を持つ視覚障害者への情報提供のあり方について改めて考えるきっかけともなった。

今回の勉強会開催では、補装具を利用する立場である視覚障害当事者の参加も多くみられた。講義については、どのような視機能であっても共通の知識を得ることができるようスライドに書かれた内容はできる限り言葉で説明することや、コントラストや文字サイズ、配色に注意をしてスライドを作成するよう配慮をしたが、勉強会の登録や参加時、アンケート回答時において、視覚障害によって、困難を感じる場面が存在していることがわかった。今後は、様々な視機能の視覚障害者への協力を募り、誰もが共通に情報を得ることができるといえる情報提供における環境作りについて考えていく必要性を感じた。

本アンケートでは、表3.4に示したとおり、今後の勉強会のテーマやその他の意見として、たくさんの貴重な意見を得た。これら多くの意見は情報を得たいけれども得る方法がわからない、困っているけれども、どう解決したらよいかわからないといった声に通じるものではないかとも考えられる。

今回の勉強会開催で得られた貴重な意見から、視覚系福祉用具に関わるすべての人が共に学び、その解決方法を一緒に考えていくことが、視覚系補装具および日常生活用具の適切な支給につながる一歩になるのではないかと考えられた。

E. 結論

視覚系補装具や日常生活用具について制度を含め知る機会が少ないという問題点を受け、計6回の視覚系補装具および日常生活用具に関する勉強会を実施したところ、各回ともに600名以上の登録があった。

補装具や日常生活用具に対する情報提供のニーズは高く、視覚障害者のみならず視覚障害者に関わる

すべての人に対し、補装具や日常生活用具に関する情報を提供することの必要性が示唆された。

F. 健康的危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権に出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし